



## 会報 2018年6月号

日本ニュージーランド協会 (関西)

創立 1970 年

New Zealand Society of Japan, Kansai

Hydrangea

in grove, being little garden,  
the detached room

(M. Basho)

紫陽花の季節になりましたが、ニュージーランドでは11月頃から5月頃まで日本に比べ長い期間咲くそうです。日本に比べサイズが大きいニュージーランドの紫陽花は12月には日本にも輸入されています。クリスマスに紫陽花をプレゼントするのも面白いでしょう。

ご報告が少し遅れましたが、4月28日の会員総会と懇親会は予定通り開催いたしました。その資料を同封いたしますので、ご一読をお願い申し上げます。



(ラム肉例会)

事務局：〒550-0002

大阪市西区江戸堀1-23-26 西八千代ビル3階C

電話・FAX：(06) 6607-2112

<http://nzsocietykansai.com>

E-mail：nzsjk@yahoo.co.jp

---

## 2017年度事業・収支概要報告

会員総会：4月15日開催      理事会：5回開催  
例会：6回開催    136名参加      会報：3回発行  
収入：995,701円（前年度からの繰越金 357,369円含む）  
支出：995,701円（次年度への繰越金 345,309円含む）

## 2018年度事業計画・収支予算概算

会員総会：4月開催      理事会：5回開催  
例会：（269回～274回）6回開催      臨時例会1回開催  
会報：4回発行      会員増強、ホームページ充実  
収入：1,052,319円  
支出：1,052,319円（予備費20,000円含む）

\*詳細は同封資料をご参照ください。

## 新役員選出 任期2年

総会にて新役員が選出され、4/28の2018年度第1回理事会で役割分担が決まりました。

### （任期 2018年度から2019年度）

名誉会長：柳田勘次    会長：石井久行    副会長：松元昇・貴志康弘・\*山内龍男  
理事：山田輝子・塙幸子・林園子（事務局長兼会計）・山下明（事務局次長）・\*加藤進  
会計担当の西川賢一理事は退任されました。永年お世話になりました。

監事：\*中村重夫・\*山下誠二

三浦治郎・正木紀通のお二人は退任されました。永年お世話になりました。

\*新任

---

## ■ 年会費ご請求

3,000円（ユース会員は2,000円）をゆうちょ銀行へ7月末までにお振込みください。

ゆうちょ銀行からの振込：記号 14110 番号 56529351

普通口座 5652935 名義 日本ニュージーランド協会（関西）

他行からの振込：店名 ヨンイチハチ 店番 418

---

## ■ 会員増強について

会員増強は、協会運営の基盤です。NZに興味ある方をご紹介ください。

現在、会員は62名です。

---

---

---

## ■ 会員名簿作成についてアンケート（回答締切:7月末）

事務局では皆さんの住所・電話番号・F a x・E-m a i lアドレスを保管していますが、会則第3条には「会員相互の親睦をはかる」と記載しています。

そのために名簿を作成したいと計画していますが、皆さんのご意見を伺いますので同封ハガキで回答をお願いします。

会員名簿は2000年11月に発行していますが、当時とは個人情報に対する考えが異なっていますので、慎重に取り組みたいと存じます。ご参考までに当時の1ページを同封します。

---

---

### ■ 第271回例会 ご案内

7月7日(土) 13時20分～15時00分

アサヒビール吹田工場 06-6388-1943

吹田工場はアサヒビール発祥の地、100年以上の歴史を持つ。見学後は工場出来立ての3種類のビールの試飲と買い物が楽しめます。参加者にはN Zのビール事情の資料を配布する予定です。

JR吹田駅北口から徒歩5分、定員20名

参加費:不要

申込先(事務局):nzsjk@yahoo.co.jp

06-6607-2112

\*定員オーバーでお断りの会員のみご連絡いたします。事務局からの連絡ない方は時間厳守でご集合ください。

### ■ 臨時例会 ご案内（縁日会）

8月17日(金)17時～20時

於:中央電気倶楽部

北区堂島浜2-1-25

06-6345-6351

同倶楽部主催のイベントに合流

食べ放題・飲み放題・夜店のゲーム等

参加費:3000円

申込:8月9日締切り・山下明事務局次長へ。

akira@tractability.org

定員オーバー等でお断りの場合のみ、ご連絡いたします。直接会場へお越し下さい。

### ■ ラム肉調理と試食例会のご報告

(5月26日)

予定通り「こうべ市民福祉交流センター」でアンズコフーズの協賛をいただき開催しました。冒頭に5月17日に亡くなられた宗佐保さんを偲び黙祷を捧げました。協会の記念Tシャツのデザインをしていただいたり、クリスマス例会・ラム例会でビデオ撮影の担当、例会での締めユニークな一言発言などで場を和ませていただきました。ご冥福をお祈りいたします。その後、ラムのバルサミコ酢・子羊の香草パン粉焼き・味噌大葉和風ローストの3メニューを参加者が分担し調理、デザートはN Z産アイスクリーム。月齢3ヶ月以上6ヶ月未満のラムの美味しさに初参加の方は感動されていました。アンズコフーズ提供のレシピも配布しました。最後にサプライズとして、ビンゴゲーム(2会員賞品提供)を楽しみました

参加者(松元昇 山田輝子 塙幸子 柳田勘次

山内龍男 荒田利男 山下誠二 山下明

石井久行 松沼清司 中村重夫 浜中謙治

井上佳久 中谷紀子 貴志康弘 藤野紀子

清水安子 外山純 酒井香代子

酒井ケイツミか 肥塚公子 松本まさし

伊藤美登利 黒田清美 北野和夫 林進

上田清治 黒木彰)

---

---



(調理と試食風景)



私は、当日の朝刊のスポーツ欄で知り、急遽、京都に向かいました。スタンドは学生や友だち、知り合い、ラグビーファン等で大入りの状況でした。試合は、NZ チームの「ハカ」から始まりました。マオリ族の言葉がスタンドまで響きました。(因みに、前日、NZ チームが京都市左京区にある下賀茂神社を参拝した後、境内でハカを披露しました。)

NZ 学生チームは、オークランド大学・ワイカト大学・マッセイ大学・ヴィクトリア大学・カンタベリー大学・リンカーン大学・オタゴ大学が主体となり、将来のオールブラックスのメンバーがいるかも知れません。関西の学生チームにも、将来の日本代表を期待されている選手がいます。現在の関西学生ラグビー界は天理大学が強く、トンガなど南太平洋諸国から来た留学生が活躍しています。日本人の学生ラグーマンもレベルアップしています

試合を観て、NZ チームは、個々の力が強く、技術・状況判断が優れていました。関西チームは、スクラムが強く、NZ フォワードを押し込み、認定トライ（ゴールライン付近で、相手フォワードが我慢できずに、故意に何度もスクラムを壊してしまう反則）を得る程の力強さでした。

(このスクラムの強さには驚きました。)

## ■ ラグビー親善試合

(ニュージーランド学生代表 vs 関西学生代表) 観戦

2018年5月3日(祝)に京都市西京極総合運動公園球技場に於いて、ラグビーの親善試合がありました。ニュージーランド学生代表(NZU)と関西学生代表の試合《13:00 キックオフ》は、前半はNZ チームが圧倒し、後半は関西チームが盛り返して、結果は47対33(前半40-7、後半7-26)でNZ チームが勝ちました。

---

NZ 学生チームは、ここ数年は3年に1度の間隔で遠征して来ると聞きました。今回は、15回目の来日になり、熊本・関西・関東の3か所で試合をします。

全力で試合をした両チームの選手たちが、試合終了のホイッスル後(ノーサイド)、ジャージ(チームユニフォーム)を交換していました。試合をした者同士が相手を讃え合う時間です。当日に配布されたパンフレットの挨拶文には、印象的な文が掲載されています。「この機会を得た関西学生代表メンバーは、ラグビー人生の良い思い出になると思います。…今回戦った選手が(2019年日本大会、2023年フランス大会のワールドカップで)再会されることを願っています。」この挨拶文は、関西ラグビーフットボール協会会長(日本ラグビー協会理事)坂田好弘氏(75歳)のものです。また、NZ学生代表チームを率いるロジャー・ドラモンド氏は、「坂田好弘氏は、ニュージーランド学生代表と日本代表の両方の代表経験を持つ特別な存在です。…坂田氏と再会できることを楽しみにしています。…これらの試合を通して、選手やスタッフの間で友情が深まることを期待しております。」と書かれました。また、「我々は、1936年に初めての日本遠征を行ない、それ以来、長きにわたり交流が続いており、NZU(ニュージーランド学生チーム)にとりましては、この日本ラグビーとの友好関係は非常に価値のあるものです。」と、書かれています。

私は、学生時代にラグビー競技を経験したことがあり、日本代表として活躍した坂田好弘氏に、是非会いたいと思っていました。現役時代の坂田好弘氏は、俊足のウィングバックの選手でした。彼は同志社大学出身で近鉄に入り、NZに留学(カンタベリー大学)したことがあります。日本人初のニュージーランド州代表選手となり、ニュージーランド大学選抜、NZバーバリアンズに選出された方です。ニュージーランドでは、「空飛ぶウィング選手・サカタ」と呼ばれ、東洋人初の「国際ラグビー殿堂」入り(2012年)

をしました。日本代表キャップは16回を数えます。(当時は、現在のように国際試合が多くなかったので、これは偉大なことです。《キャップ》はラグビーの代表選手には帽子が渡されたことに由来しています。)

そして、試合後、観客がほとんどいなくなり、学生たちがスタンドをきれいにしている時、坂田氏がスタンドに登って来て、親しい方と話をしました。その方との話(挨拶)が終わったので、私は近づき、名刺を渡し、「私は、日本ニュージーランド協会(関西)の者です。坂田さんが、本協会の(初代会長の)故・川瀬勇氏と親交があったと聞いています。」と言いました。坂田氏は川瀬勇初代会長のことをよく覚えておられ、「あー。あつ。あー。川瀬さん。川瀬さんとは、長い付き合いですわ。」川瀬さんは、リンカーン大学でしたよね。「確か、ニュージーランドで亡くなられたのでしたね。」と懐かしそうな顔で話されました。1936年(昭和11年)にニュージーランド学生チームが初来日した時に、チームに付き添って案内役をしたということも、よくご存知でした。(川瀬勇は、1931年~1933年にリンカーン大学に、その後、1934年、マッセイ大学に学んだ後、帰国しました。)日本とニュージーランドの友情に私たちの協会の大先輩が大きな足跡を残されていたことを改めて感じました。(このことは、『ニュージーランドに魅せられて』のP, 60~P, 63に詳しく書かれています。)私は、たまたまに、伝説の坂田氏と一緒に写真を撮っていただきました。



最後に、坂田氏のような関西の偉大なスポーツ

---

マンが持つ飾らない人柄、彼らの言葉が持つ優しさを感ぜられずにいられませんでした。

追記；坂田好弘氏は、昨年の大学地域対抗戦決勝に於いて、引退を表明していたレフリー（41歳）に、試合後の挨拶の場で、花束と共に、胸に付けていたピンバッジを外し、レフリーに贈りました。このピンバッジは、国際ラグビー殿堂入りの時に頂いたものだそうです。最後の試合のホイッスルに気持ちを込めて吹いたレフリーに対して、何かしたいとの突然の行動だったと聞きました。

（貴志康弘）

## ■ 「5世代先に残せる持続可能な未来を」

はじめまして、小西と申します。貴協会の石井様とのご縁で、私たちの活動を紹介させていただきます。

妻と一緒にオークランドと大阪を2週間毎に往復して10年目を迎えております。

何となくこの国いいなと感じ、知り合いが誰もいない中で起業ビザを申請したのがちょうど10年前です。そこから色んなご縁をいただき、今はオークランドでスタッフ5名といくつかのプロジェクトを進めております。ご関心あれば会社のHPをご覧ください

<http://www.cony-style.com>

日本の技術を使って、マオリの人たちと2年前に土壌改良としてプロジェクトが始まりました。そもそもマオリの人たちとの付き合いは、9年前に遡ります。誰も知り合いがないニュージーランドで最初に手掛けようとしたのは、マオリデザインのメガネフレームでした。当時メガネメーカーさんの許可も得てデザイナーを探していた時にアレンジしてくれたのが、マオリの雑誌の編集長をされていたAtaさんでした。

毎年オークランドファッションウィークにて、マオリファッションショーに招待頂き、日本酒をお持ちして参加し続けていた結果が、新しいプロジェクトへ発展しました。

マグネシウムの入った布ボールで洗剤を使わな

くてもいい「マグちゃん」シリーズの取り扱いも、ニュージーランド・オーストラリアを担当させていただいております。これから医療器具の取り扱いも始まってきます。色んなご縁から、日本のいいモノを取り扱えるようになってきました。

Building a Sustainable Future with Five Generations ahead in mind.

5世代先に子供たちのことを考えた未来を創るというのが私たちの考え方です。自然に優しい、人に優しい日本の技術やサービスをニュージーランドで提供をしております。

私達の考える持続可能は、自然環境の持続と、人の健康の持続です。WHO憲章に、**Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.** とあるように、健康は、肉体の健康、精神の健康だけでなく、社会的な健康が満たされて健康と考え、私たちはコミュニティのサポートとして事業を創っています。

オークランドでは、これからの若い人達の為に、既に活躍している方々をボランティアでお呼びして、どのように乗り越えて今の仕事をやってきたのか、という対談とワークショップを行っています。また、関西でも定期的にニュージーランド交流会を行い、時々東京でも行うことがあります。近い将来、こうした出会いの場が、ニュージーランドから来る方々を迎える器にもなるだろうと思っております

国と国が繋がるためには、人と人、コミュニティとコミュニティとの繋がりが重要です。私は日本とニュージーランドを往復している立場にあるからこそ、両国がいい関係を築く触媒になることを目指した活動をしていきたいと思っております。ニュージーランド交流会は定期的開催をしておりますので、皆様も是非ご参加いただき、あるいは、日本ニュージーランド協会（関西）様との共催が出来ればと思っております。

（小西靖基・新客員会員）

## ■ Kiwi から学んだこと

海外の人達にも日本の歴史や文化を伝えるボランティアガイドをめざして、2016年9月から12月までの三ヶ月間、ニュージーランドに語学留学しました。そこで感じたことをお話しします。

ホームステイ先はRotoruaの中年夫婦のお宅でした。Rotoruaは、郊外のOwhataに住む娘・HinemoaとMakoia湖の島に住む若者・Tutaneikaiのラブストーリーや、Hatupatuと怪鳥・Karangaituikuとの闘いなど、マオリの伝承が数多く残る町です。温泉地としても有名ですが、おもちゃのような街並みで、町の中央に立つとほとんど町の端が見えるような感じです。澄み切ったRotorua湖の南岸に位置し、色とりどりの花々が美しく咲き乱れ、晴れた日には遠く緑色に輝く高原が見えます



(ロトルア街風景)

お二人は少し風変わりな夫婦だったのかもしれませんが。生活を始めて一週間目ぐらいでしたか？突然ゴミ捨て場に連れて行ってくれました。車で少し走っただけですが、簡易ゲートを入ると草原の一角を切り開いて、さまざまなゴミが捨てられていました。横には粗大ゴミの置き場もあって、ゴミ収集車が回収した物をそこに捨てるのだそうです。市は広報を通じて分別を徹底していますが、最終的にこんなふうに処理するのかと驚きました。回収してもらえなかったゴミは個人がゲートでお金を払って捨てればいいのかそうです。

上空にはカモメが群がります。カモメにはきれいなイメージを持っていたのですが、KiwiはScavengersと呼びます。日本のカラスのようなものです。ここがいっぱいになると土をかけて戻して、

また他の草原を掘り返すそうです。さすが自然豊かで人口の少ないこの国ならではの仕方なのだと感じました。翌日その感動を学校で伝えると、みんな一緒に、そんな経験したくないというような顔をされました。もちろん私はご夫婦に感謝しましたが・・・



(ゴミ捨て場)

語学学校は、中国・韓国・台湾・フランス・スイス・ロシア・サウジアラビアそしてニューカレドニアなど南太平洋の国々から、様々な年齢の学生が来ます。とりあえず在籍中は当時64歳の私が一番年上でしたが、生徒も先生もとてもフレンドリーで、English Onlyの授業以外は楽しく過ごしました。確か入学して二週間目ぐらいだったでしょうか？金曜の朝、親しくなった先生が目をキラキラさせながら、“Kuni, TGIF”と駆け寄ってきました。本当に嬉しそうに大きな声で、だから驚きました。TGIFとは“Thank Goodness It's Friday”、意味は「やった！金曜だよ。神様、ありがとうございます！」という感じでしょうか？そう言えば、私のLandladyは水曜の朝、いつも“Kuni, It's hump day”とささやいていました？humpとは、ひとこぶラクダのコブのこと。最初、何のことか分からなかったのですが、Kiwiと生活して、すぐに理解できました。彼らにとっては一週間の頂上の水曜日を過ぎると、後は坂道を転げ落ちるように待望のウィークエンドになだれ込むという感じなのです。

やっぱり私のホストファミリーは少し変わっていたのかもしれませんが、毎週末、誰かを招くか招かれるか？おかげで毎週末美味しいバーベキューをいただきました。用意してくれたお弁当も朝食もその延長だったので、二ヶ月を過ぎたあたりから、毎日こっそり胃薬を飲んで体調管理に努めました。

ホストファミリーが連れて行ってくれるバーベキューパーティーで感心したことは、とにかく週末はどこかのお庭でビーフステーキが焼き上がるまで、大人たちは汗びっしょりになりながら子ども達と遊ぶということです。まさに、彼らは金曜の午後から日曜の夜まで家族や愛する人達のために物凄いパワーを使って遊びます。そしてそのために週5日間をがんばるといのが、彼らのライフスタイルなのだと感じました。

次に驚いたこと感動したことと言えば、お孫さんの一歳の誕生パーティに連れて行ってもらったことでしょうか？ Auckland にいる二番目の娘が、そして Singapore で働く三番目の娘がボーイフレンドと帰って来るたびに、親戚や友人を呼んで結局3回お誕生会を開いたことです。その度に満一歳の女の子は両親や訪問客から綺麗に包装された大きな箱のプレゼントをいくつもいくつももらいます。毎回そうでしたが、女の子はプレゼントに埋もれて見えなくなってしまう。今までこんな光景を見たことがありませんでしたから驚きましたが、とにかく微笑ましくて……。でも見ているうちに、こんなふうに幼い頃から抱えきれない愛情いっぱい祝福されて育った子ども達は、また自分の子ども達に同じようなことをして、その積み重ねが Kiwi の土壌を作っていくのだらうと思ったり、日本に比べ生活的には決して豊かではないにしても、日本では得ることのできない素晴らしい自然環境と温かい人間関係の中で育つ Kiwi を羨ましく思いました。



(誕生日風景)

何年前か前、プレミアム・フライデーでしたか？ 「月に一度の金曜日ぐらい、ゆっくり過ごしましょう」と呼びかけた国がありましたが、あれからどうなったのでしょうか？人の生き方は強制されて変わるものではないでしょうし、そもそも社会基盤の整備もないまま、御上の掛け声だけで「やりましょう」と言われても定着させるのはやはり難しいでしょう。

Kiwi 達の過ごす Weekend を「物凄いパワー」と感じるのは、仕事優先！（間違い？仕事に追われまくっている！）の日本人の哀しい性なのかもしれません。もちろんニュージーランドにもいろいろな問題があります。しかしそれ以上に日本では真似のできないものを感じました。英語力の向上は全くの落第点でしたが、彼らの心の底から人生を楽しむ姿に、これからの私自身の生き方に示唆を受けたように感じました。

(分領国治)

=プロフィール =

大阪府南河内郡の中学校で38年間主に社会科教師を務め、小・中学校の管理職を歴任して2012年に退職。学生時代から好きだった古事記研究を深めるうちに、地域の歴史ガイドボランティアを始め、現在では海外からの旅行者に大阪や奈良・京都を案内する Osaka Systematized Goodwill Guide Club に所属する。

## ■ NZニュース・クリッピング（4月～5月）

- ・最低時給引き上げに伴いコーヒー代等値上がり  
4月1日から16.5 NZ ドルとした。16.4万人が恩恵を受けた。21年までには20ドルにする方針。
- ・コモンウェルス大会閉会（4月4日～15日、71の国・地域）  
ホッケーは、オーストラリア戦に4対1で勝ち金メダルを獲得。今回のゴールドコースト大会で46個のメダルを獲得し過去最多となった。

・住宅価格継続上昇中

年間では 4.2 % 上昇、国内平均価格は 56 万 NZ ドル。ギズボーン、ホークスベイ、ウェリントンなどの都市での価格上昇が主要因。

・NZ と AU、どちらが住みやすいのはどっち  
家族でオーストラリアから帰国した NZ 人が母国での生活費の高さと給与の低さに耐えかねて、再びオーストラリアへ帰ってゆく傾向がある。

・働くのイヤ、無職でいたい

タスマン地方の失業者の中には、果樹園でフルーツピッキングをするよりも、無職でいたい者もいる。1 日 9 時間から 10 時間、同じような仕事を繰り返す、雨がずっと収入がないと不満がある。この地方には年平均 7 千件の求人があるが、果樹園主は、外国人労働者に頼っている。旅行者でも働ける特別ビザも発行された。

・日光東照宮へ神馬の贈り物

この寄贈は 50 年間続いている伝統である。Komaru と名づけられた白馬は、2 ヶ国の長い友好関係を象徴している。この伝統は、1964 年の東京オリンピックの時に NZ 政府が日本馬術連盟に白馬を贈って以来。

・メーガン妃のウェディングベールに施された  
国花・コーファイ

ウェディングベールに、53 種類の花の刺繍が施されていた。英国人のケラー氏の手になるもので、コモンウェルス各国を象徴した花がデザインに採り入れられた。

・キーウィフルーツ梱包の仕事キツイ

若者が働かず生活保護に依存していることがメディアで取り上げられている。農場・工場でのキツイ仕事、低賃金がその理由。

・漁獲量の過少報告問題

グリーンピースにより大手の数社がホキ(魚)の漁獲量を過少報告していることが判明。ホキは、輸出魚の中で最も価値が高くマクドナルドのフィレオフィッシュ等に使用されている。資源保存の面から大きな問題。

・ビザ審査が厳しく、留学生ターゲットか  
インド人申請者への審査が他人種と比べ厳しいと言われている。雇用主補助ビザではインド人は 14%、中国人は 4% が却下されている。移民局は人種差別はしていない、審査基準にもとづき審査しているとのこと。

(NZ 大好きより)

~~~~~

**お悔み**

1998 年にご入会された加古川在住の宗佐さんが 5 月 17 日にご逝去されました。楽しい個性あふれるお人柄で皆さんに親しまれておられました。お悔みを申しあげます。  
柳田名誉会長、松元副会長の追悼文を掲載させていただきます。

**「逝くのが早すぎたね、宗佐さん」**

松元副会長と私が葬儀会場に着くと、宗佐さんが制作した彼の分身に出迎えられた。自撮りした宗佐さんの笑顔の横に、「生前のご厚誼に感謝します。鼎の宗佐 保」と自書してあった。生まれた土地と家族を愛し、人間関係を大切にされた宗佐さんらしい見事な作品である。  
彼は享年 78 歳だから、87 歳の私より身罷るのが早すぎた。医師から「後三カ月」と宣告されると、彼は終活に全力をあげたというから、その心情を察すると素晴らしい作品に胸が痛む。盛者必衰とは言っても、「逝くのが早過ぎたね、宗佐さん」と言いたくなる。

奥様の話では、宗佐さんはいつも日本ニュージーランド（NZ）協会（関西）の今後に、思いをはせていたという。確かに困難な時期も何回かあったが、宗佐さんはそれを乗り切る努力をしてきた。たとえば、川瀬初代会長の追想・遺稿集には反対もあったが、彼が素晴らしい表紙絵を自分が描いて装丁もしてくれたので、出版は成功した。この他にも、まだ書きたいことは山ほどある。しかし、与えられた字数が400字を超えたので、私の追憶を閉じる。合掌

（柳田勘次）

## 「宗佐保さんを偲んで」

2018年5月26日、日本ニュージーランド協会（関西）恒例のNZ産ラム肉を参加者全員が料理して食する会が催行されました。その会の冒頭に、5月17日他界された宗佐保さんを偲んで全員が黙祷しましたが、改めて宗佐さんがその場に居られないのだという事を実感することになりました。同会の主な行事の場には、常に宗佐さんがビデオカメラを手に各テーブルを回られる姿がありました。被写体となる人たちの姿や行動を温かい目線で捉えて下さり、阿吽の雰囲気を出す空気のような存在が私達に安心感を与えておられました。そういう宗佐さんが今年のラム肉会にはいらっしゃいません。ふっと生じる空疎感と寂しさを感じたのは私だけでは無かったと思います。

宗佐さんとは柳田名誉会長の紹介で約20年前にお会いしました。ゴルフも2、3回一緒にプレーさせて貰いましたが、スコアには拘らない楽しいラウンドだったことを思い出します。10年位前からは「私は普通のゴルフをするにはもう体力がない。今は地域の古い友人たちとグランドゴルフをするくらいです」とゴルフのお誘いを断っておられました。

加古川市に宗佐という地域があります。数年前に「宗佐さんのご先祖はその宗佐の主ではありませんか？」とお聞きしたことがありますが、それ

には「私共の宗佐は一介の存在で大した出ではありません」と笑っておられました。5月20日の宗佐さんの告別式場は、地域の人達やご友人達で満席の状態でした。出席者の代表で弔辞を述べられたのはグランドゴルフの仲間の方で、宗佐さんの地域に深く根差し近隣の中心的な存在であったことを述べておられました。

宗佐さんは、医師からご自分の命が長くないことを知らされてから死に対する手配をされていました。その中でご自分の通夜、告別式用に準備されたお言葉をご紹介します。

生前のご厚誼に感謝します。 鼎の宗佐保

（式場入り口のご自身の写真付の案内板。

手には火の付いたタバコも！）

- ・有難う ありがとうさん 感謝のみ たもつ
- ・マイライフ妻に尽くされ愛されて タモツ
- ・存分に生きた 生きたよ マイライフ 燦人

（式場内に表示）

煙好院鼎宗佐頑固居士（ご自分が書かれた法名）  
積和頑 （しゃく わ げん）（実際にお寺さんが決めた法名）

ご自身を第三者的目線で表現され、ご自分流を78年のご生涯を通して貫き通された古武士然とした宗佐さんを改めて尊敬の念をもって見上げています。 合掌。

（松元昇）

~~~~~

## ■ ご寄稿のお願い

皆さんからの原稿をお待ちしています。NZに関する情報・旅行記等をお気軽にお書きください。

次号の締め切りは、9月15日です。